

会 議 録

会議の名称	第五次座間市総合計画策定に係る分野別団体懇談会【健康・福祉】		
開催日時	令和3年11月8日（月） 19時00分～21時00分		
開催場所	座間市役所5階 5-1会議室		
出席者	【市】 佐藤市長、三浦副市長、大木企画財政部長、白井健康部長、中島福祉部長 【団体】 健康・福祉に係る団体 17団体 22人		
事務局	企画財政部企画政策課		
会議の公開可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴者数	— 人
非公開又は一部公開とした理由	—		
議 題	これからの座間市についての意見交換		
資料の名称	次第 これからの座間市について 補足資料 第四次座間市総合計画の取組結果（一部抜粋）		
会議の結果			
	意見交換		
議事の詳細			
	別紙のとおり		

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 「これからの座間市について」説明

} 別ファイルにまとめています。

4. 意見交換

【コンサルタント】

それでは、意見交換に移りたいと思います。御意見のある方は、挙手をお願いいたします。

【参加者】

ボランティア連絡協議会の〇〇です。3点ほど希望というか、意見を申し上げます。

まず、我々の加盟団体が主に活動しているのはサニープレイスですけれども、その中で活動する時に、団体として使えるWi-Fi環境があると非常にやりやすくなるという意見が出ていて、それをボランティア連絡協議会で実現しようとする、年間予算の7割近くをWi-Fi環境を整えることに使ってしまうことになりちょっと無理だなということがありますので、是非その辺、協力願いたいかなと思います。

2点目。これは個人的に苦い経験がありまして、コロナの関係でいろいろ問い合わせる際に、座間市に保健所が直接設置されていないと思うのですね。電話等問い合わせしてもなかなかつながらず、ワクチンをどうするのか質問してもなかなかつながらないために、どうしたら良いか分からない状態がしばらくあったので、これは座間市の人口の問題もあろうかと思うのですが、保健所の設置等、まあ周辺の団体とかその辺の絡みで、何とか実現出来ないものかなと思っております。

3点目。脱炭素の実現に向けて、座間市として我々市民ができそうなこと、例えば車で、EVやFCVなどを購入する際の補助金などはできないものなのでしょうかということと、市の公用車をEVとかFCVとかにできないのかなと、計画はあろうかと思うのですが、その点をお聴きしたいと思います。

【コンサルタント】

ありがとうございます。今、3点ございました。まず1点目は、Wi-Fi環境ということで、団体としての活動環境における課題を挙げていただきました。二つ目はコロナ対応に関する御意見、三つ目は脱炭素ということで、公用車のEV化など、今後の取組に関する御提案をいただきました。まずは、今のWi-Fiに関する御意見のように、各団体が活動環境として抱えている課題についてから伺いたいと思います。重点的に取り組んで欲しい点など、御意見のある方は挙手を願います。

【参加者】

今の話と少し似ているのですが、携帯電話を持っていらっしゃらない方もまだまだ多くいらっしゃるのが現状です。持っても、いわゆるガラケーでLINEは使えないという方がたくさんいると思いますので、携帯の貸し出しとか、そういうことも考えていただけたら有難いなと思っています。

【コンサルタント】

ありがとうございます。他に、活動環境に関する御意見はございますか。
それでは、活動環境に関する二つの御意見について、市からお願いします。

【市長】

御意見いただきましてありがとうございます。まずは活動拠点のWi-Fi環境の関係ですが、実は先日の教育の関係でも同じように御意見が出されました。公共施設は、徐々にコミュニティセンターなどからWi-Fi環境を整えているというところでございますし、また市としても、DX化をこれから推進していくということでもありますので、Wi-Fiの環境を整えるということについては今後の課題として捉えております。

それと、携帯を持っていない方やガラケーの方への対応についてですが、やはり同じく市としてDX化の推進を全庁的に掲げておりますので、そういった取り残されてしまうかもしれないという方たちへの対応は考えていかななくてはいけないと思っておりますので、課題として捉えていきたいと思っています。

【コンサルタント】

ありがとうございます。次に、保健所の設置についての御意見がありました。健康・福祉の分野ではとくに今後もコロナに関する対応が続くかと思えます。コロナ対応に関連する御意見がありましたら、まとめて御発言をお願いいたします。

【参加者】

医師会の〇〇です。コロナと言えば我々が発言しないというのも変な話なので、まずお話をさせていただきます。この計画の中で今、財政のことが出てきましたけれども、総論としてやはりこの医療・福祉関係の支出というのは、現状から考えると減ることはなさそうだと、むしろ、そこへどうやって効率的に人・お金・その他を回していくのか、そういうことになるのだと思います。今お話にあった保健所の設置は法的な問題で現実的には不可能だと思うのですが、そうではなくて、いかに情報を市民に的確に伝えるか、情報弱者と言われる方々にいかにその情報を伝えて、市民が逆に欲しいこと、今知りたいことを行政に問いかけた時に行政がタイムリーにそれに答えられるか、その仕組みづくりということになってくると思います。今はコロナですけれども、こ

れからも感染症との闘いは人類が生きている限り必ず付きまとう課題ですし、自然災害等が起これば医療環境の整備ということが絶対に必要であります。災害時の医療環境をどう整備するかは、何と言っても行政の最も大きな課題だと思います。それに対してもやはりかなりのお金が必要だし、いろいろなことで非常に難しい課題がたくさんあると思います。ですから、総論としての医療・福祉・災害は切っても切り離せない問題ですから、そこをいかに効率よく整備していくか、これに尽きると思います。それは我々もいつもそう考えていますし、そのことを市ともに考えて、そしてまちづくりをしていく、そこは絶対だと思います。そこは知恵を出すべきところだと考えております。

【コンサルタント】

ありがとうございます。情報発信ということと医療、福祉、感染症対策、今後も含めて財政的な課題も御指摘いただきましたし、そのためには効率よくということと、団体と行政とが一緒になってということもあったかと思えます。そういったコロナ対策、それと少し広げて医療の話もあったかと思えますが、その点に対して市の御意見はいかがでしょうか。

【市長】

保健所については、その役割の大きさを市民が実感したところだと思います。今回のコロナ禍では、県の要請に応じて市からも職員を派遣しました。保健所の設置は中核市以上でなければできないため市単独では難しいですが、県に対して人員を増やすように要望を上げることは可能かと思えます。

情報発信については、本市としてはDX化を進める中で、今年度はLINEを推進させていただきました。現在6万2千人の登録があります。それにより、新型コロナウイルスのワクチン接種はかなりスムーズにできた部分がございますが、冒頭で出ました、デジタル化により取り残される方たちをどのようにフォローしていくかという対策は、今後大変重要だと認識しています。

いかに効率的に情報発信をし、医療、福祉、災害への対応をしていくか、できる限り財源を押しさえながら、最少の経費で最大の効果を発揮するためにはどうしたら良いかなどは、本当に課題だと思います。例えば、市内で様々な活動をする団体が、このように一堂に会して情報を交換する機会もなかなかないと思います。様々な分野の中で取組が重なっているところや、企業で同じような目標に向けて取り組まれている所などを、何らかの形で情報共有をして力を合わせていく、市内の資源をしっかりとつなぎ合わせて、相乗効果や化学反応などを期待できるようなことを進めていきたいと私は考えております。

【コンサルタント】

ありがとうございます。コロナ禍において、今回の健康・福祉や医療については重点的なテーマになるだろうと思います。

脱炭素社会の実現に向けた公用車のEV化や補助金に関する御提案もありました。SDGsや持続可能なまちづくりについても大きなテーマだと思います。そのことについて、市のお考えはいかがですか。

【市長】

これまでも低炭素社会の実現ということで、EV車に対して、市内企業からの寄附金を財源とする補助制度を行ってきました。EVのための急速充電施設も市に設置しました。神奈川県でもEV車への促進のために協議会等を立ち上げ、市内企業でも充電施設を設置しています。これまで本市は低炭素社会を目標に掲げて取り組んできましたが、国が脱炭素へ一歩進むということで、本市としても脱炭素を掲げて進めていきたいと思っています。それにはやはり市民の御協力が必要です。掲げた目標に向かって、ともに努力をしていただけるような、広報なども含めて、考えながら進めていきたいと思っています。

【コンサルタント】

それでは次の御意見を伺いたいと思います。健康やスポーツの関連、高齢者や障がい者福祉に関連する団体なども参加されていると思います。それぞれが、どのようなことを重点と捉えているのか、御意見いただきたいと思います。

【参加者】

座間市スポーツ協会の〇〇です。当協会は、19種目のアマチュアスポーツ団体で構成されておりまして、約6,500の方が登録しています。それだけの方がいるということで様々な御意見が出て来ますが、一番多いのは、やはり座間市のスポーツ施設の充実を訴える方が非常に多いです。サッカーや陸上などの競技施設は、近隣他市に比べてやや劣っているという考え方をお持ちの方が多いです。そうした中で、第五次計画策定に係る我々の意見としてお聴きいただければと思うのですが、第四次の時にはスポーツ・レクリエーションの施策の方向として、実施計画事業としては「総合運動施設の調査・研究に努めます」と謳っていただいています。ただ、第四次を基本とした令和3～4年度の座間市市政運営指針では、実はそのことが削除されています。市のホームページで見られますが、この座間市市政運営指針は「第四次座間市総合計画基本構想で掲げた目指すまちの姿や市の組織体系、市と市民等との役割分担等を継承し、本市の最上位計画である総合計画に準ずるものです」と記されています。我々スポーツ協会の悲願であり、ある意味、夢と希望でもある「総合運動施設の調査・研究に努めます」という方向性が、なぜ市政運営指針では削除されてしまったのか、非常に残念でなりません。もちろん、新たに座間市に総合運動施設を作ることは相当に難しいという現実を理解しています。それなら、作るということではなく、近隣の市に協力をお願いし、施設を共有させていただけないかとか、あるいはキャンプ座間にある素晴らしいスポーツ施設を借用できないかなど、いろいろな案を模索する、

そうした調査・研究に努めて貰いたいというのが我々の考えでもあります。こうしたことも含め、今現在、なぜ市政運営指針や実施計画などから削除されてしまったのかというところの説明をお願いします。あるいは今後、第五次計画の中ではそういったことも考えて欲しいという願いを込めて、ちょっとお伺いをしておきたいと思います。よろしくをお願いします。

【コンサルタント】

ありがとうございます。いまスポーツというテーマ、とくに総合運動施設についての今後の検討と、既存施設の活用や広域連携なども含めて御提案があったと思います。他にスポーツ・レクリエーションに関係する御意見のある方いらっしゃいますか。

今の御意見に対して市からお願いします。

【企画財政部長】

御指摘いただきましたとおり、第四次座間市総合計画におきましては、「総合運動施設の調査・研究に努めます」という文言を記載させていただいている一方、市政運営指針にはその文言が記載されておられません。私どもといたしましては、同じ市政運営指針のスポーツ・レクリエーションという施策の中に、「スポーツ・レクリエーション施策の整備・充実に努めます」というところ、これは第四次座間市総合計画にも書いてあるのですけれども、このところと目指すべきところは同じではないかと、「総合運動施設の調査・研究」という言葉はこの中にも含まれるという判断に基づきまして、このようにとりまとめをしております。

一方で、施設を実際に作れるかどうかは、今後の財政運営等を含めて検討する中で総合的に判断せざるを得ないと思いますが、逆に御提案をいただいたと私は解釈しましたけれども、近隣市の施設利用やキャンプ座間の活用などの御提案については、今後の第五次座間市総合計画策定の中で考えていくべき項目だと思います。貴重な御意見をありがとうございます。

【コンサルタント】

ありがとうございます。今後の具体的な検討に御意見が活かされるかと思えます。

それでは、次の御意見を願います。

【参加者】

老人クラブ連合会の〇〇です。市内には、地域活動組織や自治会、老人会などがありますが、他市に比べて組織加入率が非常に低いです。これは我々自身が反省すべき問題ですが、全国的に見ても組織加入率が低い神奈川県下で、座間市はとくに劣っています。これについて、市は地域団体を活性化し、高齢者を含めた地域住民の生活改善に取り組むべきだと思います。それについての市の見解と、団体に対するサジェスチョンをいただきたいと思えます。

高齢化が進むこれからのまちの健康づくりは、健康寿命の増進と、そのための予防的活動やスポーツの振興に尽きると思います。そのためには、個々の老人クラブが活動する拠点が必要です。だいたい80歳を過ぎると、徒歩10分を超える移動が困難になります。10分以内で集える場をいろいろな形で充実させていくことが、座間市の健康づくりの基本になると考えます。是非御検討いただきたいと思います。

【コンサルタント】

ありがとうございます。組織加入率を上げるための地域活動の活性化というのは、共創や協働の観点でも重要な御指摘だと思います。また、高齢者の活動拠点の充実についても御意見をいただきました。地域の高齢化や、高齢者の活動に関する御意見などが他にありましたら、まとめて伺いたいと思います。いかがでしょうか。

【参加者】

座間市介護支援専門員協会です。ケアマネジャーの職業団体です。横浜、川崎辺りでは、ケアマネジャーの高齢化が進んでおまして、平均年齢60歳以上という感じになっています。座間市では辛うじて平均40歳代半ばかなと思いますが、結局は担い手不足で、次世代、私たちが高齢になった時にケアマネがいなくなってしまうということが出てきてしまいます。これはいつでも言われていることですが、介護職の人材不足が問題なのかなと思います。そこら辺に歩いている人でも働けるような職場ではないと思うのですが、実際に介護職の現場では、面接に来たら「はい、今日からお願いします」というのが現状でありまして、本当に、子どもの頃から介護職ってどういうものだよとか、何か教育分野でも教えられたら良いのかなと思います。

【コンサルタント】

ありがとうございます。高齢化という課題に対し、支援する側の課題を、活動されている中での実感として御意見いただきました。その他、いかがでしょうか。

【参加者】

民生委員の〇〇です。高齢者福祉の具体的な問題として、地区社協の人数が少なすぎます。高齢者が増えて具合の悪い人も増える中、我々はそこにつなぐだけなので、例えばひばりが丘地域包括支援センターには4人しかいません。4人で第2地区、東原、ひばりが丘、小松原を全部みている訳で、非常にそういう高齢者が増えてきているにもかかわらず少ない。もう一つ言わせていただくと、健康づくり課からの仕事が多すぎるということもあると思います。何を主にしてやっていくのかというところを、もう少し市として考えていただきたいと思います。

座間市には世帯数が6万以上あるのに民生委員の数が主任さんを別にすると122名、一人当たり担当するのが500世帯くらいになるのですね。国の基準では、座間市ぐらいの人口ですと

200～300人が担当する世帯数です。500ともなると、全部見なきゃいけないということになると民生委員を増やさなきゃいけない、そっちの方にいくのですが、民生委員も高齢化していますのでなかなかいません。ということで、効率的に進めるには、訪問が必要な世帯の名簿を市から出していただくのが一番良いと思うのです。神奈川県内でも、市によっては出しているところもあります。個人情報に関わるので難しい面はあるのですが、今のままでいくと、民生委員も平均年齢が70歳位になっていますので、非常に難しい状態になっているので、逆に、もう少し市の方で仕事を減らして欲しいのですよ。民生委員の立場としては非常に難しい状況になっているということは申し上げておきます。

【コンサルタント】

ありがとうございます。活動されている方の高齢化や支援する側の人材不足など、重要な課題を御指摘いただきました。社協やシルバー人材センターの方にも御参加いただいておりますが、人材不足についてなど、御意見ありますでしょうか。

【参加者】

保護司会の〇〇です。人材不足からすると、その典型的な例になっております。座間市の保護司の定員は27名ですが、現状は18名です。保護司になれるのは66歳以下の人で、定年は75歳です。今勤めている高齢の方がゆくゆく定年になってくると、候補者がいないというのが現実です。保護司というのは、仮釈放された人の保護観察を担当して、月2回程度の面接をしながら指導・支援する仕事です。少年から大人までいて、私は3名担当していますが、2～3名担当するのが通常となっています。安全安心のまちづくりからすると、不安要素があると思います。日本ではやはりボランティア人材が減っています。昔は自営で40～50代の人材がいましたが、今はほとんど働いてしまっている。保護司は無償ですので、生活にゆとりがあつたり、自宅で面接できたりという環境が整っている人でなければ難しいので、そういったところでいろいろ考えていただきたいと思います。やはり信用状況がありますので公務員の方々が、例えば今ですと60で定年ですから、そういうところに民生委員や保護司をインターンの的にやっていただいて、できる人をどんどん増やしていければ良いなと思います。市の方向として考えていただければ良いかなと思っています。

【コンサルタント】

ありがとうございます。高齢者の活動拠点の充実や、ケアマネジャー・民生委員・保護司といった支援する側の高齢化と人材不足などの問題が出ました。組織加入率の低さもありました。ここまでの御意見について、市からお願いいたします。

【市長】

貴重な御意見、ありがとうございます。老人クラブの方から組織率が大変低いという御意見をいただきました。これに関しては、自治会も組織率が大変低くなっておりまして、50%を切っております。老人クラブの高齢化が進んでいるというお話も伺っております。先日も分野別懇談会で同様の御意見がありました。市内のボランティア団体の高齢化が進んでいることは私も感じております。大変良い活動をしていただいているにもかかわらず、次世代に引き継がれないという現実があると思います。保護司会の人材不足についても深刻な問題だと思っています。民生委員も含め、こういったボランティアに支えられて地域の安全や安心が守られているということを感じていない方も増えていると感じています。こういった仕事をしているのか、果たす役割というところがなかなか周知されていない部分もあると感じておりますし、それぞれの団体の中でもいろいろと試行錯誤していただいていると思いますが、例えば地域にある企業とコラボレーションしてみるとか、様々な団体で横の連携を図りながら活性化をしていくという方法も考えられると思います。地域の福祉がどのようにあるべきかを、私たちは改めて考え直さなければならない時期に来ていると私は感じています。そういったところを是非、次期総合計画の中で行っていきたいと思います。

地域包括支援センターの人員が少ないという御意見もありました。地域包括支援センターと地域がどのようにつながっていくのかということも大きな課題であると私も感じております。民生委員さんはもちろん御存知ですが、地域の方々に地域包括支援センターがどういう仕事をしているのか、介護が必要になった時に最初に相談する場所であるとか、地域包括支援センターではカフェを開くなど周知のための活動を行って来ていますが、行政としてもそういったところをしっかりと支援していく方策を考えていかなければいけないと感じています。やはり、横の連携、庁内の連携も必要ですが、更に広げた形の連携ということも重要だと思っています。そこをしっかりと、地域の中でどのようにつながっていくのかを考えなければいけない時期が来ていると感じています。

ケアマネジャーの高齢化、介護人材不足というのは全国的な課題となっています。内閣でも介護や保育の給与を増額することが検討されています。本市としても何かしらの対応をしなければいけないと考えております。介護職への啓発として、今も小学生のうちの職業体験や中学校での各分野の方による講演などを行っていますが、様々な職業を子どもたちに知ってもらえるように、更に進めていかななくてはと考えております。

【福祉部長】

福祉部の中島でございます。貴重な御意見をありがとうございます。

先ほど、健康づくり課からの仕事が多すぎるという御指摘がありました。我々も、今年度からの地域福祉計画を策定する中で、随分多くの委託事業を社協や民生委員にお願いしているなど実感しています。その中で、別々に進めているものを集約して効率化が図れないかなど、課題とし

て受け止めているところがございます。限られた財源・人材を効率的に活かすことが大事だという御意見もありました。福祉は市の財源から見ても割合が高く、効率的・効果的に行うという視点を考え、今後実施していきたいと思えます。

【健康部長】

健康部の白井でございます。健康づくり課の仕事について御意見いただきました。高齢化が進む中で、市からボランティア団体への委託業務については、必要なことにピンポイントに取り組むという絞り込みが必要だと思っております。

介護予防のための地域の拠点づくりについても、必要だと思えます。介護予防に限らず、地域の拠点となるサロンのような場所の担い手を増やしていく施策に、第五次座間市総合計画の中でしっかり取り組んでいきたいと思っております。

ケアマネジャーの高齢化については、横浜・川崎の平均年齢が60歳以上と聴いて驚いております。座間市では40代ですが、いずれにせよ我々現役世代は高齢化していきます。人口の1番多い1972年生まれの方が後期高齢者になっていく時に備えて、しっかり担い手を確保していく、そこまでつなぐための施策が必要になってきます。そこをしっかりと目標として捉えて計画に盛り込みたいと考えています。

【市長】

私の方からもう二つお答えさせていただきたいと思えます。

元気で長生きをということで御意見をいただきました。御存知のとおり、本市は健康文化都市宣言を行っております。健康文化都市大学など様々な施策を行っていますが、市民への周知はまだ充分とはいえません。元気で長生きを、というのは誰もが望むことだと思えますので、現行の施策にプラスして市内の企業などにも御協力いただきながら、総合的な施策の展開ができればと思っております。

保護司や民生委員の定年の話も出ました。公務員も今後、定年延長の話が出ています。それも踏まえ、民生委員、保護司といった地域のキーマンになるような方たちのボランティア確保はますます難しくなると感じています。インターン的な制度という御提案もありましたが、制度を皆様に御理解いただく方策や、人材確保のための手段については、本当に真剣に考えていかなければならない課題だと考えています。

【参加者】

老人クラブの〇〇です。最大の問題は、高齢化がどんどん進み、福祉の担い手がどんどん不足することはわかっていたのに、あまりにも多くの活動を、同じく高齢化していく民間ボランティアに依存し続けたことにあると思えます。

この問題には、行政の組織改革も含めた対応が必要です。我々がお世話になっている社協では、密集した机で職員が必死に業務をこなしている。こんな環境でよく健康が維持できるなど思うほどです。そうした人たちには、いずれ社協の中心に立って業務の効率化を担って欲しいですが、実際には、主要ポストは市の退職者ばかりで、このままでは組織の成長が見込めません。市と、半分市である社協には、もっと有機的に活動して欲しい。本当に活動している人たちが更に活動の効率を高めるような行政であるべきです。前向きに取り組んでいただきたいと思います。

【参加者】

座間市社会福祉協議会の〇〇です。社協への温かい御意見をありがとうございます。私としても、団体の組織力を上げるため、市ともっと一体的に連携していくべきだと考えております。

新規職員の確保等、人材不足も難しい課題です。介護事業では平成28～29年にかけてのデイサービス事業の撤退、ヘルパーの大量解雇等に対応してきました。福祉は幅広いですので、社協としても自治会や地区社協等とも一体となって、地域にきちんと柱を立てていかなければと思っています。

私は地区社協で立野台の区域を担当しております。立野台に限らず、現場には高齢化と空き家増加の現状があります。御意見にあったとおり、やはり拠点が大事だと思います。子どもや高齢者、障がい者など全ての福祉の分野に横串を指して、多世代交流、サロンの充実などに行政としても支援をいただければと思います。

地区社協の最少区域は自治会です。今後も地域の行事などに一体的に取り組む中で、社協が自治会に依存している部分も多々あります。社協には会費制度等がありますが、その他にも寄附や共同募金などいろいろな自主財源を確保できるよう、行政と一体的に連携して組織力を上げていきたいと思っています。同様に、自治会とも一体的に協力して、地域を支える今後の活動につなげていかなければと思っています。災害、医療など、いろいろな方面につながる地域の福祉力を上げていくために、総合計画及び個別の地域計画などで、今後も協力し合っていきたいと思っています。

【参加者】

座間市障害者団体連合会の〇〇です。座間市の障がい者団体は、身体・知的・精神の計8団体で構成されています。そこからの意見です。

一つ目は、やはり組織率の低下です。同じ障がいのあるもの同士が、やはり同じ障がいになってしまった人たちのピアサポートやピアカウンセリングなどを進めるためにも、行政として障がいの特性に応じた対応を進めるためにも、障がい者団体を活用していただき、組織を広げる取組を進めていただきたいと思います。

二つ目は、障がい者の権利条約についてです。障がい者には情報コミュニケーション手段として、手話や要約筆記、点字、ルビを振るといったことが必要です。市の広報などの配布物には、

一部でも良いのでそれらを適用していただきたい。意思疎通のコミュニケーションについて、対応をお願いします。情報意思疎通支援条例などができればと思っております。

三つ目は、障がいのある人たちへの理解啓発です。障がい者団体では、今年から障がいを理解していただくための説明会を開いていますが、それだけでは全体の理解啓発には至らないと感じています。幸い、最近のドラマに視覚障がい者の理解につながるものがあり、街中でも声を掛けられることが増えて大きな影響力を感じています。障がいの有無に限らず暮らしやすいまちとして、理解啓発のためのそうした取組をよろしく願いいたします。

【コンサルタント】

ありがとうございます。地域福祉の観点で、行政・団体・地域などの連携、組織力や地域力の向上、サロンの充実、障がい者のコミュニケーションツールの充実など幅広い御意見をいただきました。ここまでに市について市の意見ををお願いします。

【市長】

貴重な御意見をいただき、ありがとうございます。

市が様々なボランティア団体に依存してきたという御指摘をいただきました。私も地区社協と活動していて、社協の団体自体が自治会の会員と同数以下に減っている、自治会も会員の方たちがあって、その中で地区社協がつくられていて、自治会はあっても地区社協はないという所もあるようで、その限られた方たちから会費をいただいて、でもそれは地域全体の福祉を行っているということに、議員時代から課題を感じていました。社会福祉協議会というものがどういう団体で、地区社協がそういう仕組みで行われていて、寄附なども含めて財源確保している訳ですけども、もちろん市からも委託事業や補助金などを出していますが、そういったところと市の施策と密接に関連しながら社会福祉協議会というのは様々な事業を行っていただいているところなども含めて、やはりそういった仕組み自体を御存知ない方が多い。多いからこそ、自治会からも加入していただかず、地区社協の存在もよくわかってらっしゃらないということもあると思います。地域福祉は、自治会や地区社協を通じて成り立っているということの啓発をしっかりと行っていかなければならない、課題だと思っております。

ですので、やはり各団体がどういった活動をして存在しているのかをもっと多くの方たちに知っていただき、切り口を変えれば参加できる方々もいらっしゃいます。福祉まつりはコロナ禍ということで、大変迅速にネットで懇談会をやっていただきました。その機動力、迅速な対応をしていただいて、多くの世代の方々に参加していただいて、それをYou Tubeで公開できたのは大変有意義だったと思います。そういった取組をしっかりと進めていく必要があると思いますし、様々な組織の活動内容なども、市には市民活動サポートセンター、社協にもボランティアセンターがあります。そういった所と更に連携ができるようにしながら、重なっている部分は供用しながら、一緒になって、企業なども含めて、地域で活動している様々な組織を含めて、何が地

域でできるのかということ、地域ごとに特徴もあると思いますので、地域の中で集まって話し合いをするということが大切だなと思っています。

先日も分野別団体懇談会で、保育園で地域の高齢者の見守りとして災害時の声かけなどについて話し合いを行っているという事例を挙げていただきました。それは、地区社協の仲立ちもあると思いますが、今まではそうした視点はなかなかなかったと思います。例えばそうした幼稚園、保育園などと地域福祉をどう有機的に複合させていくのか、他にも企業もありますので、災害時などの福祉について企業にどう御協力いただくのか、そういったことも含めて考えていかなければいけないと思っています。

今、高齢者施設での学習支援をしていただいている所があり、これも社協にお願いしています。地域資源を有効活用していくという視点も重要だと思います。サロンの充実についてもございました。空き家の活用をこれから考えていかなければいけませんし、福祉施設で大きなホールがある所は地域に貸し出しても構わないという話もいただいています。そこと地域をどうつないでいくかということも大切な視点だと思います。私もいろいろな市民活動団体と活動してきましたが、ある企業では大きな会議室を御提供いただけるということで、子育て支援関係のイベントや、近所の企業に見学に来た小学生たちの説明会場などとしてお借りしたことがあります。地域にある資源を有効活用する方法はいろいろあると思います。そういった地域の情報を皆様としっかり共有しながら、どのように地域の福祉を向上させていくかが行政としての課題だと私は認識しています。そういったことにしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

また、障がい者団体からは、ピアサポート、ピアカウンセリングの話がございました。ピアサポート、ピアカウンセリングについても課題として取り組んできたところですが、やはり、障がいをお持ちの方たちの悩みや困難は当事者の方たちが一番わかっていますし、経験してきた方たちが後輩の方たちに知恵や体験などを共有することで解決していく部分もあると思います。市内の小学校などに講演をしていただいたキャラバン隊の活動などもあります。そういったことで、子どもたちに啓発をしていただくことや、様々なサポートが当事者の方たちを通じてできることは大変有効だと思っています。

また、手話や要約筆記、公共の配布物への配慮についても御意見をいただきました。その辺りについても御相談させていただきながら、できる限りの配慮をさせていただきたいと考えております。

【福祉部長】

皆様から大変貴重な御意見をいただきまして、かなり具体的な御指摘をいただきました。今日は総合計画という視点ですので、総合計画の中で福祉部としてどこまで取り入れれば良いのかというところはありますが、その下位にあるそれぞれの個別計画の中ではしっかり謳っている課題として捉えている部分かと思います。今後、団体の皆様とはそういった面でもお話し合いをさせていただきたいと考えています。ありがとうございました。

【コンサルタント】

ありがとうございます。時間の方ももう少しというところとなりました。他に、まだ発言されていない方で御意見等ありましたら優先させていただきますが、いかがでしょうか。

【参加者】

市の広報紙についてお尋ねします。今、座間市は約6万世帯、広報紙の発行部数が約5万枚と聴いています。その他に、希望すれば戸別配達も申し込めると聴いています。広報紙はものすごい情報紙です。もう少し記事の作り方も、福祉情報にページを割くなど工夫できると思います。重要な情報源として、6万部を全戸配布することは検討いただけないでしょうか。

【コンサルタント】

広報紙について、いかがでしょうか。

【市長】

広報紙の紙面の構成については市政戦略課で検討中です。毎号全戸配布というのは財政的な部分もありますので、貴重な御意見として受け止めさせていただきます。

【コンサルタント】

そろそろまとめの方に行きたいと思います。よろしいでしょうか。
それでは最後の御意見ということで、よろしく願いいたします。

【参加者】

福祉については、地域の力が源になるというところがあります。しかし地域から見ると、福祉には六つの圏域、学校には六つの中学校区、自治会には13の地区自連と分かれているために連携が上手くいかない実状があります。区割りの統一は難しいですが、それぞれの区割りで会議を行うとメンバーがダブることもあり、そこには人材の無駄遣いがあるのかなと思います。コミュニティセンターは八つありますが、緑ヶ丘や入谷、座間など、無い地区については拠点にもなり得ませんので、今後の計画の中で、拠点を伴う区割りの統一ができればと思っております。

【コンサルタント】

ありがとうございます。連携のための御提案の一つだったかと思います。後ほど総括で少し触れていただければと思います。

それでは、今日出していただいた御意見をまとめさせていただきます。

- ・ボランティア活動のためのWi-Fiや携帯貸し出しなどの環境整備

- ・コロナ禍での医療の現状と課題、健康の視点も含めた効率化の課題
- ・脱炭素への自動車のEV化の促進（環境の分野でも参考に）
- ・健康、スポーツの視点で、総合運動施設の具体的な検討の必要性
- ・地域福祉という大きな視点で、活動拠点の充実、支援する側の課題、人材不足、団体の組織率向上、団体等の活動に関する課題、地域・行政・企業などの連携、それを進めるための情報発信、地域資源の活用など
- ・広報紙の課題
- ・圏域の課題

それでは、意見交換は以上とさせていただきます。最後に、市長から総括をお願いいたします。

【市長】

皆様、本日は夜分遅くに長い時間ではございましたが、大変有意義な御意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど、六つの圏域、六つの中学校区、13の地区の自治会連合会があり、11の住区のうちコミュニティセンターが無い所もあるという話が出ました。どのように地域福祉の拡充を図るかは大きな課題ですし、人材や活動内容の重複があっても統一には進まないということもありますので、それぞれの資源などをお互いに知り合うことがとても大切だなと思っております。

今、教育の分野では、コミュニティ・スクールという取組が進んできています。そういったものも地域の福祉を考える中では一つの施策になるのかなと感じております。今ある様々な本市の区割りの関係を整理するには各自治会の事情や歴史もあって難しいですが、住区で一つずつの自治会というのが理想だと思っております。10を超える自治会を持つ住区もあれば、小さい単位で一つの自治会をつくっている所もありますので、その辺りは皆様の御理解をいただきながら整理をしていけたら理想的ですし、地域の皆様に御理解をいただくことも課題だと思っております。

様々な地域の福祉という視点から課題をいただきましたので、しっかりと受け止めさせていただきながら、次期総合計画の策定に向かいたいと思っております。是非、今後ともそれぞれの活動から前向きな、建設的な御意見と、御協力をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

少子高齢化が進む中で、財源も厳しく、本市の場合、昭和にたくさん建てて老朽化している小学校の更新もしていかなければなりません。公共施設も老朽化が進んでいる中で、良質な公共施設をどう後世に引き継いでいくかも課題です。財源をしっかりと確保しながら、この地域福祉をどう充実させていくのかは、大変課題だと思っております。地域の皆様と力を合わせ、アイデアを出し合いながら進めることが大変重要だと感じております。これからも御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。本当に、ありがとうございました。

【コンサルタント】

それでは、意見交換はここまでといたしまして、事務局へ進行をお返しいたします。

5. 閉会

別ファイルにまとめています。